



団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年には、高齢化率がピークに達し、医療や介護の需要は一層増加し、社会保障費の増大が避けられない状況となることが見込まれています。また生産年齢人口の急激な減少により、医療・介護人材の不足も深刻化することが懸念されます。

高齢者をはじめ地域の方々が、疾病を抱えても住み慣れた地域で、自分らしい生活を最期まで続けられるよう「住まい・医療・介護・予防・生活支援」が一体的に提供される『地域包括ケアシステム』の構築を進めております。地域の医療・介護関係者の連携強化を図るとともに、関係機関のみならず地域の方への医療・介護情報の「見える化」を促進し、安心して暮らせる町づくりのために、「在宅医療・介護ガイドブック」を活用していただきたいと願っております。

土岐市在宅医療・介護連携推進会議  
土岐市高齢介護課